

〔百練抄五堀河〕長治二年二月十三日、仙洞有小弓會、

〔中右記〕長治二年二月十三日、後聞、今日候院北面人々、相分有小弓合興、講筵了後、於北御所北壺方、

御覽左右方念人、射手皆布衣裝束如花云々、射守左少將通季、參河守伊通、越後守顯輔、丹波守仲章、筑前守宗章、右少將信通、左中將俊忠、左少將實隆、丹後守家保、散位家時、三度左多勝、懸物檀紙十帖、從御前被下、

籌刺左、上野守季安、右、上野前司邦宗、的付左、伊賀守孝清、右、散位隆忠、

左方頭伊豫守國明朝臣、右方頭尾張守長實朝臣、兼日七八日以前駒取、不論君達諸大夫、只依北面

人許者、講筵之後參入、公卿七八人許有召、小弓合間候御前內大臣以下云々

〔殿曆〕長治二年閏二月三日辛未、辰刻許參御前、於宮御方有小弓、申刻許退出了、九日丁丑、今夜內

内密々小弓事云々、兵衛佐宗能無懸物云々、仍送鞠、

天永二年二月十四日丁未、辰刻許參鳥羽殿直衣、中納言相具、寢殿南庇にて主上鳥羽、有小弓事、余

○藤原又同、上皇河白、同御、中納言同候、

〔續世繼五濱千鳥〕う月の比、帝德、宮の御かたに、こ弓の御あそびに、殿上人かたわかちて、かけ物な

どいだされ侍りけるに、あふぎかみをさうしのうたにつくりて、歌かきつけられたりけり、その

うたは、

これをみておもひもいでよ、濱千鳥跡なきあとを尋けりとは、と侍りける、返し、公行の宰相右

中辨とて、おはせしぞ、去給ひける、

はま千鳥跡なきあとを思ひいでて、たづねけりとも、今日こそはしれ、とぞうけ給りし、歌は殿

寺法性のよませ給へるにや、侍けん、拾遺抄に侍るをの、宮の大臣の古事思ひいでられて、いとや

さしくこそきこえ侍しか、

〔長秋記〕長承二年四月七日壬辰、師仲依召參内裏、小弓會中宮御方、入夜歸、

保延元年六月七日己酉、有真卷小弓會、御所被儲懸泉云々、主上崇徳、與師仲令射、小弓給云々、入夜